

## 学研労協 NEWS ニュース

### サイエンスカフェ「つくろう！科学の輪 第5回」(3/2)を開催しました

#### 「日常を科学する心 ～野鳥観察を例にして～」

講師：池長裕史さん(農研機構)

学研労協とつくば市民大学が主催するサイエンスカフェ、「つくろう！科学の輪 第5回」では、農研機構・中央農研業務推進室の池長裕史さんを講師としてお招きし、野鳥観察を例として、日常の身近な出来事を科学の目で見直してみることの面白さ、日常を科学する心を持ち続けることの大切さについて話題提供していただきました。

前半の講義では、鳥類の進化と分類学について学び、様々な野鳥の生態についてご紹介いただきました。野鳥の観察に関する説明では、「鳥の絵を描いてみよう」「スズメの体色の特徴を描いてみよう」という課題が出され、参加者は配布された紙と筆記用具を使って、思い思いに鳥の絵を描きました。しかし、参加者の多くは、鳥の特徴やスズメの体色の特徴を正しく描くことができず、日常的に見慣れたものであっても、実はその特徴を十分詳しく観察できているわけではないことを痛感させられました。池長氏から、鳥の特徴やスズメの体色の特徴が詳しく解説されました。また、普段見かけるカラスにも2種類あり、つくば地域でよく見られるハシボソカラスとおでこが盛り上がっているハシブトカラスがいること、ハシボソとハシブトの鳴き声も違っていることを聞き、参加者は身近な鳥についてよく知らないことがわかり、日常の身近な物事を詳しく観察してみることの面白さ、日常を科学する心を持ち続けることの大切さについて、身を持って実感することができたように思います。

また、バードウォッチングで使用する道具として、双眼鏡の使い方が詳しく解説され、また実際の鳴き声が聞ける図鑑を使って、繁殖のための鳥の囀り（さえずり）と情報伝達のための地鳴き（じなき）の違いを学ぶことができました。

後半では、「ウグイスは本当にウグイス色か？」「オシドリは本当におしどり夫婦か？」といった興味深い話題が紹介されました。

つくば地域でみられる野鳥が紹介され、参加者からは野鳥の生態に関する様々な質問が出されました。また、翌日に開催される「宍塚の自然と歴史の会」主催の「日曜観察会」について紹介してサイエンスカフェを終了しました。

**次回、サイエンスカフェは6月頃開催予定です。皆さん、ご参加ください。**